



稲川勝憲議員

防災対策

災害時に井戸水の活用を

重要な水資源として調査・検討

質問 宮城県沖を震源とする地震は、2033年までに99%の確率で発生するとされており、地震や津波などの大規模災害時におけるライフラインの確保は、重要な課題であると考えます。

特に「水」の確保について、町内にある井戸水は飲料水として活用できなくても洗濯水などとしての利用

価値が高いと思われるので、災害時の備えとして、あらかじめ井戸の場所を調査するなど、検討する必要があります。

沼崎町長 町内の山田中区自主防災会では、災害時の生活用水として活用する目的で、10月下旬に地区内の「古井戸」に手押しポンプを取り付け、約40年ぶり

に復活させた。これをきっかけに町としても災害時の重要な水資源として、町内の井戸の状況を調査することにしました。当面は「所在場所」「使用の状況」「管理者」を把握し、災害時の活用の仕方については、他の活用例を参考にしながら検討していきたい。

町の考えを聞く



集中豪雨などで冠水が心配される町道サギの巣・妻の神線（織笠地区）

道路行政

町道サギの巣・妻の神線の整備 県事業「織笠水門工事」での整備に期待

質問 去る11月11日早朝、低気圧の接近による集中豪雨で「町道サギの巣・妻の神線」の道路（織笠駅から200m東へ行った付近）が冠水した。幸い、交通事故は発生しなかったが、車

両のすれ違うときに水しぶきが両方の車両のフロントガラスに飛び散り、ハンドルの操作を誤れば交通事故発生が懸念されるので、早急に改善すべきでは。

沼崎町長 質問の箇所は、

岩手県で現在施工中の織笠川三陸高潮対策事業（織笠水門）の計画区間であり、その計画によると右岸防潮堤を整備する際、町道は防潮堤を乗り越す計画とのことである。
完成は平成31年度予定とのことであり、当面は維持補修の中で対応したい。



山田中区自主防災会で約40年ぶりに復活させた古井戸（八幡町）